

タイランド再発見！スペシャルツアー  
日本人団塊世代のセカンドライフ  
チェンマイロングステイ



チェンマイには市内にも近郊にもスコークタイより古い遺跡群や珍しい寺院が多い。

### いざ、ロングステイへ

約800万人とも言われる団塊世代のライフが本格化し、海外でのセカンドライフを楽しむ人たちが増えている。この世代の人たちは、若い頃バックパッカーとして海外を放浪したり、バイトをしながら自由生活をしている知り合いが少なからずいて、彼らを羨望の眼差しで見ているという人が多い。そして、真面目に会社勤めをして来た人は、リタイアした今、いよいよ自分の時代がやってきたと思っているだろう。

日本人シニア層のロングステイ先として、タイは常に人気上位国に挙げられている。少し前まではロングステイ希望国上位のほとんどが英語圏の中で、トップ5以内に必ず入っているタイは異彩を放っていたが、最近のランキングを見ると1位は不動のマレーシアで、タイは堂々の2位になっている。他は8位までやはり英語圏（ハワイ、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、フィリピン、シンガポール）で占められている。

### チェンマイの魅力は？

タイの中でもロングステイヤーに特に人気の滞在先がチェンマイである。チェンマイにはロングステイヤーが求める条件がほぼ全てそろっている。

1. 日本とのアクセスの良さ
2. 親日
3. 治安の良さ
4. 必要なものがそろった田舎
5. 日本語が使える医療機関
6. 物価の安さ



11月にもなるとチェンマイの気候は爽やか。朝食は気持ちよい外気に触れるテラスで。朝晩は長袖を着る人が多い。

### 7. 気候の良さ

8. 日本人のコミュニティの存在  
そして何より、古都チェンマイの古い街並みの中を歩くと自分たちが子供時代を過ごした古き良き日本に似た情景があり、妙に懐かしさを感じてしまふ。

滞在先にチェンマイを選ぶロングステイヤーの多くは、ツアーや知人の薦めでチェンマイに来てその魅力に惹きつけられたのがきっかけで、何度か通ううちに本格的なロングステイへと発展している。紙面の都合でその魅力のすべてはここでは書ききれないが、老若男女を問わずチェンマイに惹きつけられる人は多いのは事実である。

### 日本人シニアカップルにオススメ！

ロングステイと一口に言っても、その滞在日数は様々である。チェンマイ商工会議所の定義は1年以上の滞在、つまりロングステイビザを取得し滞在する人を指している



チェンマイのスーパーマーケットでは、日本食材はほぼそろっていても不自由することはまず無い。

のだが、彼らが把握しているロングステイヤー数は日本人3500名（内60歳以上が50%）、タイ北部全体では3700名、韓国人1500名、アメリカ人500名で、日本人が圧倒的に多い。この数字は実数とは異なっているという日本人関係者もいるが、日本人が多いのは間違いないところである。

また、ロングステイビザは取得せずとも、一般的な海外旅行と比較して長期間滞在している人たちがかなり多い。日本の旅行会社などでは、1週間程度の滞在でもロングステイと呼んでいるケースもあるようだが、ヨーロッパの一般的なツアーは2週間前後が当たり前であることを考えると、それはあまりにも認識不足であろう。では、実際にはどのくらいの数の日本人が、平均で何日間チェンマイに滞在しているのか、実はこのデータがまったく見つからないため、筆者の感覚でこの記事を書き進めるしかない。

短期のロングステイヤー（これも変な表現だが）がよく利用するチェンマイプラザというホテルがある。このホテル、日本のツアー



チェンマイでは何社もの不動産会社が日本人向けの住宅・宅地開発を行っている。

でよく利用されており、場所の良さもさることながら、コストパフォーマンスの高さで定評があるため、日本人リピーターはとても多い。主な宿泊客は欧米と日本の旅行者とビジネス客で、昨今話題の新興アジアの人たちが利用しないホテルであるということも、このホテルが選ばれる理由のひとつだろう。筆者も毎年1回か、年によっては数回チェンマイに行くのだが、チェンマイプラザホテルの情報や滞在者への聞き取りで、日本人ロングステイの傾向を探ることはできる。聞いてみると滞在期間は実に様々で、短い人で1週間から10日前後、ロングステイレートが適用になる2週間以上という人が最も多く、長い人で2か月という人もいる。初めて来る人達は比較的短く、何度も来ている人達は長め、1年のうちに数回来ているリピーターが多い。いずれも、すでにチェンマイの良さに魅せられている人達で、カップルが多い。朝食会場で見かける日本人シニアカップルの多さには正直驚かされる。

ロングステイヤーがホテルを利用するの



チェンマイプラザのロビー。コストパフォーマンスの高さはロングステイヤーにはありがたい。

は、せいぜい2か月程度まで。それ以上になると、月契約のコンドミニアムかアパート（日本というマンションだが、タイでマンションは比較的高級物件を指すので注意）を利用するようになる。あるコンドミニアムの管理人に聞いたところ、もちろん通年で借りている人達もいるが、短期で借りる人は日本の冬場に多く、3か月から半年の期間で、毎年のように来るという。そうして何度かチェンマイに通っているうちに、思いつきりのよい人はロングステイビザ取得、さらに長期間滞在するため、あるいは残りの人生をチェンマイで...と、不動産への投資と進んでいく。

### 様々なスタイルで有意義な時間を

チェンマイプラザでは、この数年インターネット予約の割合が全体の半分以上、ローシーズンとなると8割にもなる時があるよう。個人旅行者のホテル予約の主流がインターネットにシフトしているのが良くわかる。そのせいでロングステイヤーの正確な数が掴めない状況になっているが、旅行会社が扱うツアー参加人数を大きく超えるのは間違いない。旅行会社のツアーは3泊程度が主流で、チェンマイのリピートの高さにも反して、初心者向けのツアーしかない点がリピーターの殆どをインターネット予約に向かわせているようだ。

実は、チェンマイには旅行会社のツアーでは連れて行ってもらえない大事な見どころが多く、チェンマイを起点とした近隣の素晴らしい観光地もたくさんある。昨年、メーホンソンの「ゴールデン・パイ・リゾート」に泊まったのだが、オーナー曰く、日本人のシエ

アは20〜25%あると言う。最初はとも信じられなかったのだが、考えてみれば確かにチェンマイに来ている日本人の滞在日数が長いことを思い出すと、なるほど納得のいく話だ。多くの日本人が、ポケットとただチェンマイにいるわけもなく、彼らは存分にチェンマイ近隣の旅行を楽しんでいるのだろう。過ごし方は近隣の旅行だけでなく、チェンマイは手芸品の町、アジアングツツのメッカでもあり手習いに勤しむ人もいるし、日本人コミュニティなどでボランティア活動に参加する人もいる。人により過ごし方は様々だが、皆とても有意義な時間の使い方をしていることは確かだ。

（土橋 告）

### どばしつぐる

1952年生まれ。サンヨーインテリナショナル代表。海外の独立系ホテルの日本でマーケティングを行っている。特にタイとは30年以上の関わりがあり、タイのツーリズム、ホテルマーケティング、SPAには強いこだわりを持っている。サンヨーインテリナショナル  
<http://www.hotelmarketing.jp.com/>